



気品溢れるリアスタイルを構築



開発部 部長
柴 光雄さん

マフラー開発に携わり約30年のスペシャリスト。長年の技術力と独自のアイデアで圧巻の高性能を実現する。「それぞれの車の持っている潜在的な性能を最大限に引き出すように開発をしています」。

記念すべきPBS-Sの第一弾としてリリースされるCHR／ハイブリッドやカローラクロス、レヴォーグ1.6／1.8用では、いずれも燃費改善率15%以上を達成。約10～15PSのパワーアップを果たしている。ガナドールの自信作、その実力は本物なのか？早速、インプレッションを開始だ。

「今のクルマは車重が重い割に低速トルクが足りない傾向があります。そこでPBS-Sでは、トルクを出す位置にこだわりました。低速トルクがあると、アクセルを踏み込む量を減らせる。だから燃費の改善に繋がるのです。PBS-Sはノーマルと比べて、低回転域で約2倍のトルクを出すことに成功していますよ」と、開発部の柴部長。

低速トルクは純正の約2倍15%以上の燃費改善を実現
カスタマイズの第一歩といわれるマフラー交換。しかしひと昔前のターボ車とは異なり、近頃のクルマはパワーアップしにくいと囁かれる。そんななか驚きの効果を謳うのが、ガナドールの新保安基準適合マフラー「パワーブーストシステムスーパー(PBS-S)」だ。なにせパワー&トルクの向上のみならず、大幅な燃費の改善まで果たすというから見逃せない。
大きな特徴は、テールエンド内部に仕込まれたスバイバルフィン・ガラスウールを使用しないサイレンサーとの相乗効果で、排気の流れを高める効果があるという。と言うのは簡単でも、それを実現するのはたやすいことではない。ガナドールでは試作品を作ったのはシャーシダイナモ等でのテストを繰り返し、ようやく製品化にこぎつけた。開発期間は約1年、50～100通りの試作マフラーをテストしたというから尋常ではない。そこまでするのも、新型車に見合ったスポーツマフラーへと進化させるため。従来のパワーブーストシステム(PBS)よりもさらに志は高く、15%以上の燃費向上を目指しているという。

マフラー交換だけで理想的パワーアップ

馬力と燃費を大幅改善した

ポテンシャルアップの本格派

GANADOR 進化を遂げた最新マフラー「PBS-S」
ガナドール

POWER BOOST SYSTEM. SUPER

パワー・ブースト・システム・スーパー



問:マツショウ
☎048-935-1130
<https://www.ganador.co.jp>